



こども教育学だより

鈴鹿大学こども教育学部通信 02号

こども教育学部の1期生の皆さんは現在、大学初めての学期末シーズンを迎え、レポートや試験準備に追われています。これが終われば楽しい、夏休み。さて、評判の(?)第1号に続き、第2号が完成しました。「こども教育学だより」へご感想やご意見をお寄せくださいどうぞよろしく願いいたします。(学部長 川又俊則)

前期を終えて

前回「授業紹介」で取り上げた基礎ゼミナールⅠでは6月、外部講師を招いた授業が続きました。右にその様子を写真で紹介しました。学内の教員が語り尽くせないことを、外部の先生方に、現在進行形の専門的なお仕事のお話を通じていただいております。私たち教員も多くを学ばせていただきました。専任教員だけではなく、多くの先生方に応援していただきながら、本学部を運営していることを実感しています。



飯高中学校養護教諭 中村緑先生(6/21)



津市教育委員会 永合哲也先生(6/28)

授業紹介

こどもと音楽Ⅰ 大久保友加里



「こどもと音楽Ⅰ」の授業では、幼児教育学専攻の学生が、ピアノ奏法や童謡・唱歌等の弾き歌いを学んでいます。授業は、初心者でも安心の個人レッスン形式。学生それぞれが、バイエル教則本と歌教材の課題に取り組んでおり、6月6日には、本学国際文化ホールの大ホールにて、第1回ピアノ発表会を行いました。緊張感漂うなか、努力が伝わるあたたかい演奏をしてくれました。前期の最後7月25日には、第2回の発表会も予定しています。

鈴鹿学 藤岡恭子・榎原尉津子

大学・短期大学部全1年生必修の「鈴鹿学」第8回目の授業は「鈴鹿市のこどもを中心とした健康づくり『ランニングバイク』の普及活動について」。WEBプランナーであり、モータースポーツ専門家の下野雅司氏とトライアル国際A級ライダー氏川湧雅氏をお招きしました。本学子育てイノベーションセンター(ランニングバイク研究チーム)の教育・研究活動の取り組みのお話、下野氏のお子さんのころ温まるエピソード、そして丸太の上をピョン・ピョンとプロライダー氏川氏のパフォーマンスに大興奮の90分でした。



6、7月トピックス

行事報告



7月8日(土)オープンキャンパス

養護実習報告会 (7/5)

養護教諭を目指す学生には、(短期大学部の場合)3週間の教育実習が必要です。学校への実習依頼に始まり、事前打ち合わせや実習ボランティア、授業準備や掲示物作成などを経て、実習。その学びや振り返りを学内で報告することで、同級生との横のつながりはもちろん、上級生や下級生と情報共有を行い、縦のつながりもできます。鈴鹿大学では、養護教諭養成約50年の歴史の中で伝統的に受け継がれてきた行事です。

睡眠習慣の実態調査や保健室の来室理由、怪我の発生状況、視力低下と生活習慣の関係などについての研究内容などの発表がありました。養護教諭という職業の大変さを痛感したようですが、それ以上に「こどもたちがかわいかった」こと、「やりがいのある職業」だということも改めて感じたようで、それは下級生(養護教育学専攻1年生)に伝わったようです。

これから養護実習への準備をはじめ養護教育学専攻の1年生にとって、とても参考になる情報が多く、発表会終了後もアドバイスを聞きに行く学生がいました。

1期生だけ先輩がいる、本学の大きな魅力を確認しました。(小川真由子)



左が短大部2年、右が養護教育学1年



実習報告をしている短大部2年生

こどもボランティア部始動

イメージキャラクター
よろこびちゃん



本学から徒歩7分の場所にある津市立千里ヶ丘小学校から「学習支援ボランティア」の依頼があり、本学部からは1学期(6~7月)、長田・駒田(1年)、西田・湯浅・北出(2年)、佐脇(3年)、中川(5年)、浜口(6年)の8名が活動しました。時間割の空き時間を使い、小学校に行き、算数・国語、体育(プール)、書写、社会、道徳とそれぞれ普通の大学の授業とは全く異なる学校現場を体験しました。小学生の元気の良さや可愛らしさに驚くとともに、担当されている伊藤信介先生から「皆さん、大変がんばっていらっしゃいます。担任の先生から、とても助かる」と聞いています」と御礼のお言葉を頂戴しました。本学部では、このような外部でのボランティアを通じ、実践経験を多く積むことで、現場に慣れるプログラムを組んでいます。

あとがき



平成29年7月20日発行

鈴鹿大学こども教育学部通信 02号

『週刊文春』7月27日号「学長インタビュー」特集第8回に本学が取り上げられ、こども教育学部も紹介されています! さらに詳しくは本誌をご覧ください(笑)。オープンキャンパスも始まり(上記は6/11学生集合写真)、1期生の皆さんが、自分たちで実感した本学のことを高校生たちに紹介してくれる姿をたくましく感じました。(TK)